

横須賀市立長浦小学校



# 学校便り **ながうら**

爽秋10月号

平成28年(2016年) 9月23日(金)

発行 学校長 大西 正康

長浦小学校 学校教育目標

1. 自ら考え工夫する子
2. 思いやりのある子
3. 礼儀正しく元気な子

## 実るほど 頭を垂れる 稲穂かな



今年の秋は、台風の襲来が多く、国内各地の被害状況が聞こえて参ります。心よりお見舞い申し上げたいと思います。本市でも直接的な被害は被っていないまでも、何かと心配な場面が多くなっています。ご家庭や地域の皆様にも、ご協力をいただき本当にありがとうございます。

さて、実りの秋、下表にあるような校外学習等が天候に恵まれて、充実した楽しい行事となりますように。

### <秋の校外学習等一覧 10月>

学年	日時	行き先	引率教員			
1年 2年 3年 4年	} 21日 (金)	} 横浜ズーラシア (校外学習) 三浦半島(校外学習) 宮ヶ瀬方面(校外学習)	} 小島・田村・深本・新倉 ・加藤・高祖・伊藤介助員 ・佐藤・曾我・川口			
5年				3~4日 (月~火)	三浦ふれあいの村 (キャンプ)	} 櫻田・新倉・深本 ・大槻教頭・中山介助員 ・櫻田・新倉・深本
				18日 (火)	東京方面 (校外学習)	
6年				5~6日 (水~木)	日光方面 (修学旅行)	・佐々木・曾我・大西校長
青空	28~29日 (金~土)	三浦ふれあいの村 (宿泊学習)	} 新倉・高祖・中山介助員 ・大西校長			

## 学校内外日誌

〈おやじくじら 昔遊びの会〉

9月 4日（日）

まだ暑さの残るこの日、おやじくじらの皆様のご尽力をいただき、楽しく充実した一日を送ることができました。夏にみんなでするコマ回しや



羽子板もなかなか楽しいということが、よくわかりました。お世話になりました皆様、誠にありがとうございました。

### \*感想等をありがとうございます\*

最近、この〈学校便り〉に対する感想等をお寄せいただくことが、少しずつ増えてきて、とても嬉しく思っております。ある時はご丁寧なお手紙で、またある時は地域の会等で直接お話をうかがうなど、いろいろな形でご感想をいただくようになりました。誠にありがとうございます。このような稚拙な通信であったとしても、学校からの発信が一方通行に終わっていないということを実感することが出来、何よりの励みとさせていただいています。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



### フレッシュマンその後

新米の美味しい季節となってきました。“新米”と言えば、本校にも2人の新米先生がこの4月に着任しましたが、その後の様子を本人たちに聞いてみました。

〈田村 栞 先生〉『いろいろな学年の子どもたちが話しかけてくれるのが、嬉しいです。』

クラスの子ともたちも元気いっぱい、その元気を、これからいろいろな良いことに繋げていければいいな、と思っています。』



〈川口 桃 先生〉『だんだん私に子どもたちが慣れてきてくれたと思います。子どもたちとの距離が縮まってきたようで嬉しいです。』

長浦小のみんなが、これからも元気でいられたらいいなと願っています。』



〈これからも、坦々とファイト！〉

## 長浦歴史散歩 ～その1 『古事記・日本書紀』～

### 『ヤマトタケルの物語』

景行天皇の息子倭建命（ヤマトタケルノミコト）は、九州の熊襲を平定しての帰路、出雲も治め、大和に凱旋したかと思う間もなく、東征を命じられる。

東国の各地を平定し、ようやく相模国に辿り着いた倭建命のもとに、以前から結ばれていた弟橘比売命（オトタチバナヒメノミコト）が合流した。その後、走水に辿り着き、上総国（千葉県）を目指して一行は船出したが、そこを嵐が襲う。嵐を鎮めようと、弟橘比売命は自ら入水する。そのお陰か海の神の怒りは鎮まり、倭建命らは上総国に無事上陸することが出来た。

その後、東征を終え、倭建命が弟橘比売命を追想し、足柄峠で『吾妻はや。（我妻よ。）』と詠った故事から、足柄以北が東国（あづま）と名付けられたと伝えられている。長浦町の新長浦隧道上には、「吾妻神社」がある。（上の写真）また、箱崎町（現在米軍施設）は、かつて吾妻島と言われていた。それは、走水で入水した弟橘比売命の簪（かんざし）が、この島に流れ着いたという伝説によるもので、山頂には倭建命と弟橘比売命を祀った吾妻神社があった。それが、明治33年に軍用地となったため、現在の地に移遷されたという。

因みに、千葉県木更津市にも吾妻神社があるが、これは近くの海岸に弟橘比売命の御袖が流れ着き、これを納める社殿を建立したのが創祀と伝えられている。また木更津とは、上陸した倭建命がこの地の山に登り、弟橘比売命を偲び、立ち去らなかつたため『君去らず→きさらづ→木更津』という地名となったという。長浦神明社（写真）の脇から続く古道を登っていくと、吾妻神社に着く。

本校のPTA広報誌『あづま』の名の由来でもある。

## 《 10月 主な予定 》 ・ 10日(月) 体育の日



- ・ 3～4日 キャンプ<5年> ・ 5～6日 日光修学旅行<6年>
- ・ 7日 前期終業式 ・ 8日～12日 秋休み
- ・ 11日 銀行引落日① ・ 13日 後期始業式、給食開始、委員会活動
- ・ 15日 児童陸上記録会 ・ 18日 秋の校外学習<5年>
- ・ 19日 芸術鑑賞会 ・ 20日 クラブ活動、マリノスキャラバン<3年>
- ・ 21日 秋の校外学習<1～4年> ・ 24日 たてわり班お弁当給食
- ・ 25日 銀行引落日② ・ 28～29日 宿泊学習<青空学級>

### 校長室より

— ふつう、って何 —

子どもの時から、「ふつうはさあ、・・・するよね。」「～やるのが、ふつうでしょ。」というような言い方が私は嫌いだった。心の中で、いつも「ふつう、って何だよ?」「ふつう、って誰が決めたのよ?」と疑問が沸いていて、「ふつうじゃなくて、悪かったね。」などと、拗ねてみたりした。

大人になった今では益々その傾向が増し、「～するのが、常識でしょう。」とか「〇〇するのが、教員としては普通じゃないですか。」などと、公の場では硬い顔をして、人一倍言わねばならない立場にありながら、心の中では、「なんで、日本人はすぐに、ふつうとふつうじゃないに分けるかな。」などと反発していることが多いのが正直なところ。

「ふつう、～だよね。」と言っている時の心理を考えると、それは、多くの場合「今までは、～だったよね。」と言っている場合が多いような気がする。つまりは、日本人お得意の前例踏襲主義である。今まで～だったから、今回もそして次回からも、～であるのが当然である、という心理。やはり、それが一番安心していられるからだろう。そして、それに沿わない場合、「普通じゃない。」などと言って、違和感を表明されたり、排斥されたりする。

私は、これからの日本では、「ふつうは、・・・。」などと言われなくなるのではないか、と思っている。それは、前例踏襲主義の弊害からばかりではなく、いわゆる『普通』という状態そのものがなくなりつつある、と感じているからだ。例えば**進学、就職、結婚、子育て、果てはお墓**のことに至るまで、人間生活に関わるすべての分野で、今までは在り方では通らなくなっていることがすでに多くある、ということだ。今まで安穩としていられたことが、もはや決してその通りにはいかないことが多くなっていると感じるのだ。

これまで以上に、「自分は、〇〇だ。」と言うことができ、なおかつ揺らぐことなく実行できる意志力が必要な時代になってきたと思う。